

発見！安城の歴史

本市には、250カ所を超える遺跡があります。平成26年度、埋蔵文化財センター1では発掘調査8件、試掘調査27件を実施しました。その中から、2件の調査成果を紹介します。

宮下南遺跡（桜井町）

この遺跡は、約1700年前に盛期を迎えた大集落群「鹿乗川流域遺跡群」に含まれます。周辺には二子古墳や姫小川古墳を始めとする「桜井古墳群」もあり、当時の集落と墓の様子が同時に分かる、全国でも数少ない遺跡群です。

した。江戸時代後期の桜井村の絵図には、西鹿乗川から桜井神社に沿って水路を引いている様子が描かれ、この溝はその水路の一部と考えられます。水路を用い、農業などの用水として河川を利用しようとした当時の様子が垣間見えます。

古墳時代の土器が出土

別の溝からは、たくさんの土器が見つかりました。これらは、約1700年前、古墳時代前期に使われていたものです。壺や甕などのほか、古墳に並べられるような特殊なものもあり、古墳に葬られた人物との関係がうかがわれます。

調査結果から

今回の調査では、昔の絵図に描かれた溝や古墳時代の土器がたくさん捨てられた溝を確認できました。また、古代・中世の遺物も見つかっており、この地域に昔から人々の営みがあったことが分かりました。



▲調査区域（南東から撮影、奥は桜井神社）

木杭で護岸された溝

江戸時代後期から近代の溝には、両側に護岸を目的とした木杭がたくさん打ち込まれていま



▲木杭で護岸された溝



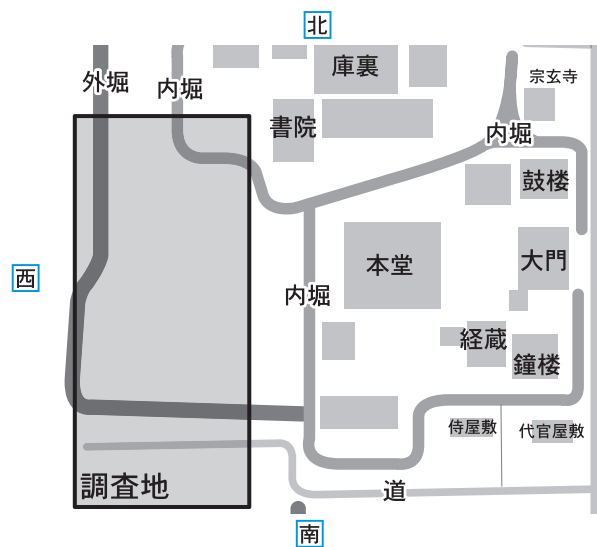
▲古墳時代に使われていた土器が出土

本證寺境内（野寺町）

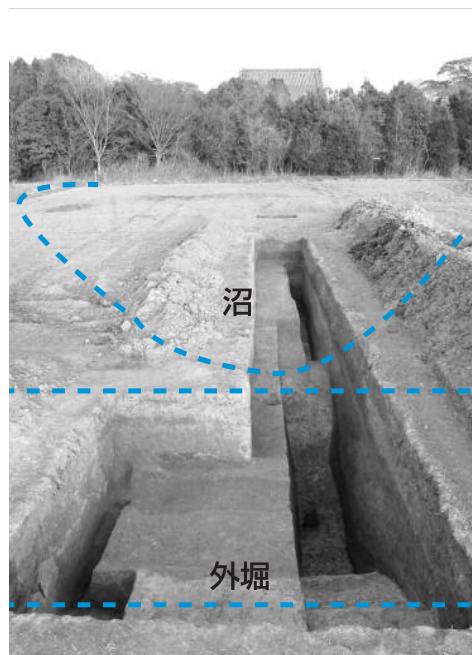
この遺跡は、3月10日に本市で3つめとなる国史跡に指定されました。これまでは史跡の指定を目的とした、外堀範囲の確認調査をしてきました。今回は史跡として今後どのように活用できるかを考えるため、境内本堂西側部分（左図参照）を調査しました。

江戸時代の絵図の通り

調査から、外堀は江戸時代後期に描かれた本證寺伽藍絵図に描かれているものと同じ場所



▲江戸時代後期の境内の様子（本證寺伽藍絵図より作成）と今回の調査区



▲調査により判明した外堀と沼（西から撮影、奥の屋根は本堂）

◀室町時代の陶器や土器が出土

本堂西側には沼や井戸が

江戸時代後期の絵図には空白地とされていた本堂西側ですが、戦国時代やそれ以前から、外堀の内側に沼や井戸などがあったことが分かりました。沼とみられるくぼ地は、調査区域の大部分に広がり、出土品から外堀と同時期に存在していたことが分かりました。沼が埋まった時期は定かではありませんが、出土品から江戸時代後期までには埋まったものと考えられます。また、井戸と思われる大穴は直径3.4m、深さ1.4m以上あり、中から室町時代の陶器や土器が数多く出土しました。最終的には、ごみ穴として利用されていたの

調査結果から

今回の調査により、これまで分からなかった本堂西側で人々の営みがあったことを確認することができ、今後の史跡整備に向けて重要な成果を得ることができました。



特別展「三河真宗の名刹本證寺」開催中

歴史博物館にて7月5日(日)まで（休館日を除く）開催しています。本證寺の歴史や数々の貴重な文化財に加え、実物大の外堀復元模型も展示。本證寺の歴史を知る、絶好の機会です。

遺跡の調査にご協力を

本市では、開発などやむを得ず壊される遺跡を事前に発掘調査しています。住宅建設など工事の計画がある場合は、埋蔵文化財センターまでご相談ください。

●調査成果の展示 今回紹介したものは、埋蔵文化財センターで展示しています。調査や展示品を紹介するパンフレットも無料で配布していますので、ぜひご覧ください。

●展示日時 (火)～(日)午前9時～午後5時(年末年始を除く)

※月曜日が祝日の場合は開館。



▲出土品などを展示しています